

レポーター：きれいな刺繍ですね。

学芸員：はい、これは赤いフェルト字のようなものの上に金糸で刺繍がされているんですけども、柄は生命の木の柄が刺繍されているんですね。

レポーター：これは木なんですか。

学芸員：はい、つたのようにクルクルしてますけども、樹木で、葉っぱが生えていて先の方に実がなっていたり、花が咲いていたりにしています。こうした文様はアジアの染色品にたくさん見られるんですけど、この染色品も実はインドネシアのスマトラ島でつくられたものなんです。

レポーター：インドネシアのスマトラ島のものがどうして福岡市美術館に展示されているんですか。

学芸員：はい、福岡はアジアの玄関口ということで、様々なアジアの文化を紹介する役割を担っていますけど、アジアの伝統的な美術工芸の一つの大切なジャンルに染色品がありますので、私たちの方でも積極的に収集したり展示をしたりしています。このアジアの作品一つとっても、様々なアジアの各地からの影響も見られて、例えば生命の木という文様はもともとはインドでさかんに作られたものでしたし、赤とか黒とか色の好みは中国風ですし、地上と天空ですね、神様の世界をつなぐ大切な存在と考えられているんですけど、こうしたものを、まあこれは壁掛けといいますか飾りに作りまして、こういったものをたとえば、婚礼の時とかおうちの中にたくさん飾って、その場を美しくふさわしい、儀式にふさわしい場にするためのものなんですね。

レポーター：なかなか、アジアのものを直接目で見られる機会というものはないので、とても感動しますし、うれしいです。